滿洲

三十里堡 后 一、〇五
普蘭店 二、一二
瓦房店 二、一一
得利寺 四、〇三
萬家嶺 五、〇三
熊岳城 六、二九 八、〇五
前 一〇、〇三
二、一一
二、〇三
三、二九
五、〇五
蘇家屯 煙台 奉天 虎石台 新台子 鐵嶺

奉天新民屯間 下り
奉天發 前 七、一〇 后 四、一〇
連着 九、〇七 后 三、〇七 三、五〇
撫順 蘇家屯間 上り
蘇家屯發 前 九、五〇 撫順着 后 一、二〇 后 三、五〇 七、二〇
撫順發 前 一〇、五五 蘇家屯着 后 二、一七 后 四、五〇 八、一七
營口奉天間 下り
大石橋着 七、五〇
營口發 正午 三、三五
海城發 三、二九
大石橋着 一、三〇 發 一、五〇
鞍山站發 四、五六
大連旅順間 (下り)
大石橋着 發 四、五〇 五、一五
大連發 前 六、三〇 前 一一、〇〇 八、〇〇
旅順着 七、三三 一二、四〇 八、四〇
南關嶺發 七、一八 后 三、〇〇 九、〇〇
大連着 九、五三 一〇、三三 ……

雜報

●清國近事

▲蒙古の巡警編制　蒙古庫倫駐在參贊大臣綳楚克車林は蒙古巡警を編練して地方の彈壓、商民の保衛に資せんかため印務處主事存德蒙古六品官車林多爾濟を派して蒙古哨官二員、蒙兵百名を選拔練習せしめ其經費毎年約六千兩を要すへく庫倫管下に於て支辨すへき旨を奏請したりと

▲サモアの清領事　駐清獨國公使は此程外務部に電告して獨逸人は合同約條に違反しサモア島の淸人を虐待して殆んと人理を沒し淸人の生命財產を保安するに妨けたる旨を報したるにより外部は廣東總督に報し獨文に通曉せるものを領事として該島に派遣し保護に任せしめ其費用は先つ獨逸領事と商議し該公司より支給し以て合同の言を明にすへきを飭令せりと

▲停車塲移轉の議　北京正陽門前は非常の雜踏にて交通甚た不便なれはとの理由にて京津鐵道の停車塲に赴く者は順治門より出入する樣に改修し京津鐵道の停車塲は崇文門の方に移して同門より出入せしむる事とし汽車の發する時刻には右の兩門を閉す時は混雜を襲き得へしとの說あり目下某部より郵便部に對して商議中なりと聞く

▲長江筋饑饉の消息　安徽省內欵州鳳陽、穎州、徐州、和州、六安州、泗州等所謂北の各地方に於ける凶荒の結果は過日來愈よ容易ならさる形勢となり去十四日の如きは該方面の飢民約十五万人ゾロゾロ群を爲して雙溝鎭地方を通過し孰れも道を東に取り雲霞の如く押行きたりと

▲軍器購入　伊犁綏城の駐將軍は都下を天津に派し獨逸商信義洋行より千九百四年の最新式モーゼル步兵銃四百挺、彈丸十万發並に帶革等附屬品を添え九個月以內の受渡にて約定したり一挺七十兩五錢宛なりと

▲清政府の感謝　長江筋の饑饉につき過般來我國にて募集したる義捐金九万一千圓と別に川崎造船所の義捐金一万圓を林外務大臣より在上海總領事に送附し領事は南洋大臣に轉送したる所南洋大臣の上申に據り淸國政府の外務部は感謝の禮狀を我當局に致したりと

▲南清饑饉と九州甘藷　郵船の上海航路船の報告に依れは中淸の饑饉は非常に

(松波法學博士の談)　商業は法律の淵源たる羅馬法時代に於ては商業は賤まれ權利の客体たる奴隷即ち物の營むへきものなりとして權利の主体たる人は表面之れに關係せさりしか時勢の進歩と共に商人は社會を壓倒し今日に於ては國家も商人と言ひ得るに至れり明白に之れを語れは日本帝國も商人なり自己の名に於て商行爲を爲すものは商人なりとの現行

に跨りて、縦横無盡に切廻はしつつあ以のもの、職として此人物經濟の妙手るか爲めならすんはあらし、彼の得意想へきなり、然れとも彼は尚試驗石上の人り、故に其眞價の定まるは、尚今後數年後にあらんか。

土木課長としての山路氏は、素と是れ一術家たるに過ぎすと雖も、彼れか精悍な性格は、寧ろ好箇の事務家として認めら其の戰亂荒廢の後を承けて、幾多雜難な工事經營の衝に當り、快刀斷麻の勢を以之を裁定し、毫も遲滯と見さるか如き人之を嘆賞せさらんと欲するも得へから、彼か配下は最も御し難きものの集合せ處、然かも之を牽ふるに自ら東奔西馳し敢て其勞苦を惜ます、故に乘皆之に悅服て唯唯諾諾たり、元來普通の吏務を輕るは、技術家一般の通弊にして、又當然結果たり、然かも彼れか此通弊に陷らすて、著大の成績を擧けつつあるは、其才の既に超絶せるを證するに餘りあり、唯彼れは土木本位の見地より、他との折衝於て往往衝突を免れすと雖も、是れ畢竟已畫策の事業を遂行せんと欲する熱心の所、豈に咎むるに足らんや(未完)

人は千五　万乃至二千百弗を超えたること稀なりと

日報俳壇

紀行十句　半百生

大阪にて
冬の日の春日詣には暮れたり
汽車中所見
鴻の群おりんとす麥二寸
雲か山か呉越もわかす今朝の霧
奈良にて
老龍の枯れ野を走る大師松
神神しき春日の森やしかの聲
東京に歸りて
京に入りて師走の人となりに見
加賀への道中
我夢を汽車の運へりゆきの山
故郷にありて春を迎ふ
初日の出雪吹止たる雲間より
三月再ひ東京に入る夜雨あり
養花の雨ささやく如き夕かな
四月初め某の夜途上
夕やみの暗きを花の明りかな

◆季季雜題　〆切なし

●名士片影

石塚前民政長官韓國に臺灣に滿洲に外に勞すると十七年其間に關門海峽を過ぎたとが五十幾回の多きに及ぶさうぢや昔しは二十五回刀水を渡ると言つたが長官よりして後さういふ事は何でも無いとに爲つた。

北清風俗

不潔の源因

那人の不潔は有名であるか、其原因は、(第一)風烈しく塵多き爲である、廣茫たる陸で、空氣乾燥して毎日風強く、且土地鬆て、塵の立つこと甚しい、たから一寸も外出すれは直に塵埃にまみれて、顏も服も汚れて仕舞ふ、之を洗はんとしても(第二)清水は絕えて見當らぬ、川は至つてく、偶ゝあれは濁流溷々たる有樣である、れは止を得す之を汲み取り、明礬て澄まて用ゐるのたから、頗る手數か懸る、而て北清は山盡か多い程あつて、鑿井も大塩味を帶ひて居る、從つて洗濯等に適せ尙屢述へし如く此地方は樹木少き故炭の價か高いのと、又右の通り水の貴る爲、(第三)人民は入浴の度數か少く月二回位である、此等の自ら界の影響りして、どうしても常に淸潔にして居るには行かぬ、夫れか原因となり、慣習とり、遺傳となつて、遂に今日の如く世界最も不潔の人民となり果てたのである。

△北清風俗及び面白き失策談の投稿を歡迎す(風俗子)

●世界叢談

ロックフェラーの富收　ロックフェルーの財產に關して從來世人間に傳へらる說は臆測に過ぎす或は一億弗の歲入あひ或は數十億弗の資產ありと云ふも確

海島の秘密(第五十五回)

三嶋霜川

「此う話して來たら、大概譯が解つたらう」と櫓助は、飽迄も灘九郎を弄つてゐるやうに謂つて「仁十郎が死んで了つたら、有難い事には、此の地圖は俺獨の所有になつたのだ、だから此の地圖は、俺が持つて行く……てりや當前の事なんだ、假令汝が持つてゐても、少も價値の無いものだ。」

灘九郎は、何んとも謂はない、いや口が利かれぬのであるけれども、第一此の話を聞いてゐるか、何うか解らぬ位に靜に抑えてゐた。

長談議に、櫓助の方が反つて退屈したものと見えて、欠伸をしながら、

「俺は、もう此處に用が無くなつた、銀六お前もう船へ歸つて呉れ、俺も家へ歸る。」

と櫓助は、徐々立起らうとする。

銀六はその顏を見上ながら、

「だが、船長、灘九郎は何う片付けませういつそ海へ抛込むだら、後腹が惱めなくつて可いんですがな。」

櫓助は、鳥渡考へて、

「然うさ、海へ抛込むといふのも餘り酷いやうぢや。」

「そんなら、船へ連れて歸るんですか。」

「いや、何かにつけ、それも面倒ぢやが、何しろ此の地圖を持つてゐたのに免じて、命だけは助けて遣としなければなるまい」と少時考込むでゐて「可いわ、管はぬ此奴が娑婆へ出ても、俺等の仕事の邪魔になる譯ではあるまい、助けて置け、助けて置け併し此の儘にして置くのも餘り藝が無い、猿のやうに、その岩角へ縛つて置いて、助かる助からぬのは、此奴の運に委して置くのた。」

協議は、忽ち纏つて了つた、協議では無い櫓助の獨斷で、灘九郎は、猿のやうに岩角に繋いで置かれる事に定つたのであつた。

此樣な目に逢はされては、灘九郎は折角命だけ助けて置かれるお慈悲も、餘り有難くない譯だ、助かる助からぬは、運に委して置くのだといふけれど、此所は魔所た、滅多に人の來ぬところだ、滅多どころか、決して人の來ぬとこなんだ、此處で岩角に縛つて置かれた日には、灘九郎は餓死して、鳥にその肉の御馳走するやうな事になるのた。要するに手を下して殺さぬだけで、殺す意味は同樣事なんだ。

灘九郎は、またそれと知つてか知らすにか櫓助と銀六の爲るがまゝになつてゐた、些も逆はうとしない、勿論逆うたけの氣力も無いのであらう。

「時に、船長、私等は何時頃此處を出帆する事になるんでせう。」

「然うさ。」と櫓助は、少時默つてゐたが「まア二三日は見合はしてゐて呉れ、今度は俺も乘込まなければなるまいから。」

「ぢや今度は、船長もお乘込になるんですか。」

「然うぢや、俺は既う、此處には用が無くなつた、用の無いところに、長居は無用ぢや善は急げといふから、直に那の島へ直航するとしよう。」

「それでは何んですな、愈々黄金窟を探しに行くんですか。」

と銀六は、勇むで謂つた、

「然うぢや、地圖を活して働かせるのだ、たから俺の方に種々準備もあるから、まだ二三日は出帆されまい、その間まアお前等は、ゆるりと骨を休めてゐて呉れ。」

と謂つて了つて、櫓助は大跨に歩出して、ふと銀六の方を振向いて、

「おい、何か用が出來たら、また此處で合圖をするから、氣を注けてゐて呉れ。」

「承知致しました。」

と謂つたかと思ふと、銀六の體はもう短艇に飛込むで了つてゐた、そして元氣の好い聲で、

「さ、皆漕いで呉れ。」

言より疾く、櫂はさつと浪を截つて、劍のやうに閃くのであつた。

本紙の特色　南は旅順大連に至り北は鐵嶺公主……者は其日の新聞を其日の中に看ることを得べし

奉天電報

●蓋平事件の再抗議　二十九日午後七時奉天支社特電　都督府にて調査の結果高を殺害せるは正當防禦に非さること確實なるにより我奉天代理領事は再び抗議を將軍府に提出せり將軍は更任前總ての外交問題を解決せんとの意思あるを以て此件は意外に迅速に落着を見るへし

●食鹽問題の抗議　食塩問題は目下日清兩國間に交渉中なるに拘らす孟家屯にて清國官憲か食塩を沒收したるは不法なりとて代理領事より抗議を申込みたり（以上二項昨日第二版再錄）

●樺太境界測圖の交換　樺太境界劃定事業に就き昨冬までに終了せる實測圖は露國は北側、日本は南側を製作し已に其の交換を了り目下參謀本部内にて右製圖繼合せを行ひつゝある由なれば遠からす彼我の測圖に依り完全なる製圖の出來を見るべく其の上は六月一日を以て彼我委員アレキサンドルフスキーに於て調印する筈なり

雜報

●英海軍と獨逸　伯林來電に據れば英國海軍大臣が此頃其の議會に於て爲せる演説中英國は如何なる代價を拂ひても列國の海軍に對し今の優勝なる地位を保持すべき決心なりとの一言は獨逸新聞の激烈なる攻擊を買へり其の内にもコロンガゼツトの如きは獨逸は何時までも甘んじて英國海軍に優勝權を握掌せしむるものにあらずと敦圉けりと

●滿韓駐屯師團　滿韓駐屯の第十四師團及び第十六師團は本年十一月を以て凱旋し何れも目下建築中なる新兵營に入るべき筈にて是と交代するは第二師團（仙臺）及第十師團姫路と内定せしかにて何れも來る十一月中に徴兵事務其の他の用務を處理せしむる爲め一個中隊約十名乃至十五名の古參兵を殘留し出發する由なるが不在中の第二師團長の事務は第八師團長第十師團長の事務は第四師團長是を兼攝する事となれりと傳へらる

●大博覽會準備　來る四十五年開設する日本大博覽會會長以下各設員の任命は愈々數日中に發表せられ事務局は當分農商務省内に設置せらるゝ由にて本年度の事業は豫算二百万圓の範圍に於て先づ土地の選定敷地の買收、諸建築物の設計等を爲す筈

●協定税の影響　我が國が諸外國との間に締結しある協定税率は我が國の經濟財政に至大の影響を及ぼし居る事は人の知る所なるが關税收入に及ぼせる關係に就き大藏省當局の調査せる所を聞くに協定率ある物品の昨三十九年輸入額は一億一千六百餘万圓にして全輸入額の四分の一を超え之に對する關税の收入は八百五十七万圓餘なれば此の割合は僅に七分三厘に過ぎす今假りに現行の國定税率を右協定税貨物に課したりとして其の收入を計等すれば約三千八十七万圓にして貨物價格に對する割合は二割六分四厘弱に上り實際の收入との差は二千二百三十万圓なりと

倫敦電報

●伏見宮御請待（廿八日發）　佛國外相ピシヨン氏は巴里御滯留中の伏見宮殿下……

●利權回收と督撫　東三省官制改革は久しき以前よりの宿題にて今回の任命は毫も異とするに足らさるも從來滿人出身に限り居たる東三省督撫に盡く漢人を任命せしてと、前雲南巡撫林紹年の建議に基き一省内に督撫を併置せさることに決し之か爲雲南、湖北、廣東等の巡撫をすら裁撤せしにも拘らす東三省に巡撫を置き且欽差大臣を授け特に重大なる任務を負はしめたるとは最も注目す可き點なる可し上諭には東三省の吏治因循を以てせるも東三省其のものか日、露兩國との關係を除き民政上若く重きを置く丈の價値無きものなれは今回の督撫任命は餘りに誇張に過くるの感なき能はす隨つて利權回收を目的とせる外交政策より打算し來れるものと推測するものあるは當らすと雖も遠からさる可きかと説く者あり

●鴨綠江木材會社協商　鴨綠江右岸の森林を伐採利用する目的を以て成る日清合同木材會社の定款に關して目下我が林公使と袁世凱氏との間に協商中なるが我が國提案の大要は左の如くなりと

一、會社の資本金は之を二百五十万圓と爲し日清兩國政府に於て之を引受け少しも民間株主を混へざる事

一、會社所用の技師は總て日本人を採用し歐米人若くは清人を加へざる事

一、本社は東京に置き支社を安東縣に置く事

商進捗の如何は固より知る能はざるも協商ならば會社の事業は多分明年度より開始せらるべく我提案にして容れらるゝに於ては林局の高等官並に判任官中より大部分の社員を出すこととなるべしと

●蓋平事件と鹽問題　蓋平漁業總局の件に就き將軍の回答は一々我が要求を拒絶し來りたるに付き我領事館に於ては實情調査を關東都督府に托したるに其結果高景賢を殺害したるは決して正當防禦とは認むへからさるものあるに付別項奉天電報にもある如く吉田總領事代理は再ひ前要求を繰り返へし被害者及組合の損害賠償及び官吏の處罰等に就き將軍に向つて抗議を申込み尚は高か死体檢査を行ひ正當防禦なるや否やを確められん事を請求せる次第なりといふ而して此問題か案外迅速の解決を見るへしといふは凡ての交渉問題は將軍在任中に解決をすへき筈にて將軍は目下妥協的態度を採りつゝある由なれは一時の問題たる該事件も左迄憂るか如き結果に到らさるへきかとなり又同電報に報せる今回食塩に對する抗議は關東州食塩に就ては目下日清兩國間に於て交渉中なるに拘らす過日我商人か關東州の製塩を孟家屯に輸送したるに該地の支那塩務局は引票（特許販賣證）なしの理にて全部沒收したるは謂れ無き處置なりとて是れ亦清國官憲か一時の誤會に出てたる事なれは其解決も遠きに非さるへしといふ

……卿バーレル氏はヘリフヘツクスに於……說して曰く近き將來に於て議會に提出……き貴族院改良案は世人の想像するよ……

奉天電報

……開き以て疏通の途を設くるに在りと信する旨を漏せり

●強硬……抗議……於て清國官憲の爲めに沒收せられたる……により我が領事代理は將軍に對し重ねて抗議を爲せ……

●滿鐵の輸送力　南滿鉄道會社の引繼を受けたる狹軌式車輛は約五千輛にして全哩數に比する時は必ずしも少き方にはあらさるも而も貨物の停滯は依然として行はれ沿線商人不平の聲頻なるが右は同社が軌道改修を眼前に見つゝある今日なればとて前記引繼を受けたる狹軌式車輛を修繕して僅に運輸を開始しつゝある結果に外ならす該軌道の開始期は六月上旬を期し先北方長春方面より起工して遲くも本年中には全線の敷設を終り明年二三月頃より新軌道の事業を開始するに至るべく之と共に狹軌車輛の全部は競爭入札を以て一般に拂下ぐる方針なりと

●居留民團法施行細則發布　去月二十一日の官報を以て同施行細則の發布を見たり悉は已に公布さるへき筈のものなりしも何故か今日迄延引したる次第にて是か爲め領事館にては最に居留民假規則を發布して一時其市政の方針を定めたる程なり何れは遲からす同則に基きて施政さるへきも更らに外務省より其施行指定地の發表あらさる間は同則の適用を爲し能はすとの事

●旅順航路の近狀　郵船會社は此程より御用船薩摩丸を以て佐世保、長崎、大連經由旅順航路を開始せるが更に又京濱阪神等より旅順に至る貨物に對し通し船荷證券を發し大連にて同社船の聯絡を取る事となせり尚は昨今旅順に到着せる貨物は一ヶ月平均陸路よりするもの一千四百噸、海路よりするもの千七百噸にして建築材料家具麥粉、日用品等其過半を占むと云ふ

●鐵嶺の道路改修　支那官衙の經營に係る鐵嶺道路改修は豫算費額三十万圓の内半額を官衙より支出し殘り半額は民間より徴收する豫定にて七万餘圓は既に集まりたるを以て愈舊暦四月十五日より工事に着手する事に決したる由

●哈爾賓地域と川上領事　今回歸朝せる川上哈爾賓總領事の談に據れは哈爾賓地域問題に對し世人は種々の解釋を試むるも予を以て之を見れは其區域は露國の租借地域に限らるゝと當然なるへし然れとも此問題は未解決なるか爲めに同地は尚極めて不整頓を免れす從ひて家族の住居に便ならす今回家眷を東京に携へ來れるも全く之が爲め也併し在留邦人は目下六百名内外あり今後漸次増加の模様なりと云々

●安東縣荷扱所の設置　滿鐵會社にては四月二十五日より安東縣鴨綠江岸に安東縣荷扱所を設置し發着貨物の取扱を開始せるか運賃及諸帳表類の扱方は沙河鎮驛にて打切り整理す可しといふ

一貨物料金壹噸に付銀貳拾錢

一取扱時間は當分の間午前九時より午後三時迄と認む

●團体乘車運賃割引規程　今回滿鐵會社にては二十五人以上の團体にして一列車全階級に乘車する場合に於ては左の割合を以て旅客運賃の割引を爲すこと、爲せりといふ

貳拾五人以上五拾人未滿	貳割引
五拾人以上百人未滿	貳割五分引
百人以上貳百人未滿	參割引
貳百人以上	參割五分引

但一人の旅客運賃六十錢未滿の距離に於ける場合は割引を爲さす

●奉天城内道路完成　飯塚工程局か受負ひたる奉天城内の道路工事は熱心精勵の結果最早大概完成せしを以て不日清國官憲と受け渡しを爲す由

●滿鐵の任免

調査役ヲ命ス	佐伯　彪
調査役ヲ命ス	澤井俊藏
大連建設事務所長ヲ命ス	高橋邦太郎
遼陽建設事務所長ヲ命ス	藤　農之
技師ヲ命ス	谷　直諒
技師ヲ命ス	葛山虎一
技師ヲ命ス	中村鎌介
技師ヲ命ス	藤根喜吉
技師ヲ命ス	淸水珠三
技師ヲ命ス	大西　清
技師ヲ命ス	月野正五郎
技師ヲ命ス	工東三郎
技師ヲ命ス	宮崎繁太郎
技師ヲ命ス	浮田修身
技師ヲ命ス	貝瀨護吉
技師ヲ命ス	礒積實慶
技師ヲ命ス	服部直樹
公主嶺工作分工場長ヲ命ス	和田九市
遼陽工作分工場長ヲ命ス	松尾勘大
技師ヲ命ス	荒井　綠
技師ヲ命ス	横井加之吉
技師ヲ命ス	青木善馬
驛長ヲ命ス（遼陽驛勤務）	名川輔三郎
驛長ヲ命ス（奉天驛勤務）	猪原乙三郎
書記ヲ命ス	增尾紙三郎
書記ヲ命ス	濱田一雄
公主嶺建設事務所長ヲ命ス	本島勇太郎
千金寨建設事務所長ヲ命ス	荒瀨久四郎
技師ヲ命ス	飯田耕一郎
驛長ヲ命ス（大連驛勤務）	飯田義一
大連工場長ヲ命ス	吉野又四郎
瓦房店勤務ヲ命ス	技師　藤根壽吉
（范家屯勤務）	驛長　森田久次郎
馬仲河驛勤務ヲ命ス（馬仲河勤務）	驛長　高橋幸一郎
范家屯驛勤務ヲ命ス	

●露領事の歸任　豫て新民屯へ赴き居たる在寛城子露國副領事ミツシエルスキー氏は家族携帶去る二十七日歸任せりといふ

●滿鐵社員の來往　滿鐵社員村井啓太郎氏は去る二十五日孟家屯に到り寛城子の情況視察をなし二十七日夜滊車にて撫順へ向ひ出發せりと

大連雜談

滿鉄中村副總裁、關東都督府の民政長官となつた、恐らくてれか滿鉄より他に榮轉した濫觴であらう、記者これを指して滿鐵出身と言ふ▲愈よ滿洲は滿鐵本位に近ついて來た、須く滿洲の經營滿鐵本位たるへし▲滿鐵は滿洲經營の動脈であると、果して然らは大連は心臓て動脈、靜脈の中樞てある或は又滿鉄か滿洲經營の中樞てあるとすれは大連は取も直さす其頭腦たるの位置てある、都督府をも併せ大連に居を定むるの優れるに如かすだ、移轉すへし、移轉すへし旅順の都督府を大連に▲轉んでも只ては起きぬといふ機敏な野間五先生、舊臘大連を去つた、當時はあまり御都合もよからぬ樣見受けた、然るにである、此頃聞取によれは東京て三四万圓を儲けだとの風聞がある事實てあらう何時もなから凄い腕前てある▲五月一日より開廳すへかりし筈の大連の清國税關、ドウヤラ當分開廳仕さうもなさ左樣だ、……露が哈爾賓に開廳せぬ内は一年ても二年ても此儘、其儘▲哈爾賓の税關未た開廳あらす、大連の税關も未た開廳あらす、然るに安東縣のみ開廳既に輸出入に課税しつゝありとの事た、ヘルビン未た開廳せさるに獨り安東縣のみ開廳せしとはヘテナ如何なる理由の存するに因歟▲大谷光瑞師か來た、英國陸軍少將ガバー少將も來た、都築大使も來るへし、寺内陸相も來るへし、英國の海軍も來るとの事、德川公一行も來へし、後藤總裁も來べし、茲暫くは貴紳歡迎に多忙の大連とはなりにけりだ

●耳と筆　鐵嶺に銀岡學堂と云ふ中學師範小學を合併した學校かあるか其生理標本として教堂に掲けてある人体の解圖は奈何に教授用とは云へ余りに露骨的である▲元來支那各地の學堂にて近時普通學を教授する樣になつたのは文明の普及として寔に喜ふへき次第てはあるか何分其觀念か幼稚てあつて斯かる解圖の小學や中學の生徒には未た觀せへきてない部分迄を晝いたものを掲けて恬然何の耻らう處もなく、中國は普通學の中に生理學を加へたなそといと誇るかに觀せ附けらるるなとは却て此方て赤面せねはならない次第に爲つて來る▲夫れは仕方かないとして然んな標本を注文に應して送り越す店こそ實は勘からぬ沒常識と言はねはならぬ、特に同解圖には東京某書店の銘かあつた處を視ると其出處も判つて居る、イクラ清國輸出向なれはとてモー少し注意して貰らひたいのである。

瀛船彙報

▲江陽丸　一昨二十九日午後江陽丸は當地より豆粕二万三千五百個を積載横濱へ向け出港

▲音羽丸　は來る五月二日長崎へ向け直行すと積貨は多分豆粕

▲イヨイザン丸　は來る五月三日博多行是又豆粕を搭載の筈

正誤　前號記載瀛船彙報の中竹島丸の船客一等十二、二等三十二、三等三一二は二等船客十六人の間違ひに付き此に正誤す

一往一來

▲田中清次郎（滿洲鐵道株式會社理事）　社用の爲來營中の處昨朝中家屯より奉天を經新民屯へ向はれたり

▲由布錬太郎（滿洲鑛業株式會社員）　昨日大連より來營新市街清林館へ宿泊兩三日滯在の由

主裏方一行本日天草丸にて出發されたり當地正金銀行太田副支配人亦同船にて歸朝す

營口……天氣豫報

宮門抄

十三日

民政部　都察院　正黃旗值日　無引見　倫貝子由東陵回京請安　王中堂謝賞假兩個月恩　前甘肅布政使吳引孫到京請安　前福建學政秦綬章到京請安

召見軍機　吳引孫　秦綬章

十四日

度支部　宗人府　正白旗值日　無引見　鐵良因伊子以文職用謝恩　道府李鳳新等謝恩　新授侍衛班領霈澤謝恩　陳鐘信謝署順天府府丞恩　寶熙等前往東西陵請訓

召見軍機

皇太后皇上本日午刻升海宴堂領銜和國使臣希特斯帶領各國使臣夫人等覲見

上諭恭錄

十三日奉

上諭周馥奏考核屬吏分別舉劾一摺廣東崖州直隸州知州馮如衡豐順縣知縣畢夢祥新興縣知縣調補海陽縣知縣鄒增祜署恩平縣知縣准補鶴山縣知縣艾淮署吳川縣知縣優貢知縣厲式金署潮州府經歷王開先均着傳旨加獎高州府通判鍾隆操守難信聲名平常前署澄海縣知縣准補文昌縣知縣薛聰彝才力竭蹶操履不謹前署海康縣知縣准補新安縣知縣孫慶璋藉案勒索民怨沸騰瓊山縣知縣方紹震体弱才庸難膺民社惠來縣知縣丁啓榛心地糊塗縱差滋擾感恩縣知縣甘美棠藉病遷延意存規避前署廣寧縣知縣試用知縣方乾武任用私人串役索擾大挑知縣丁文瑜辦事粗疎奉差不謹前署海陽縣浮洋司巡檢試用從九品劉裕坤貪劣不職前代理惠來縣葵潭司巡檢試用從九品黃董培聲名齷齪前署潮陽縣吉安司巡檢試用從九品史堃操守難信前署揭陽縣教諭候選訓導林昌華署饒平縣訓導候選教諭董夢虹均擅離職守物議滋多前澄海縣教諭廉州府教授陳輔清濫竽考優均着即行革職署靈山縣知縣准補吳川縣知縣闓夢穀措置失當人地不宜着調缺另補准補與寧縣知縣姚廣譽才拘識淺難膺民社惟文理尙優着以教職歸部銓選另片奏捕無廢弛積案較多各員署羅定直隸州知州陽江直隸州知州田明曜已認命盜人犯因循不辦署陽江直隸州知州試用知府林翊審斷糊塗草管人命署歸善縣知縣試用知縣蔣鈐禕緝捕不力屢出封案電白縣知縣陳柏侯情重命案不即詣驗緝拿四會縣知縣彭申孫命盜重案均不詳辦署東安縣知縣試用知縣孫樹榮監押命盜人犯延不訊 詳新會縣知縣林玉銘監押多犯延不訊辦均着即行革職餘着照所議辦理該部知道欽此

奏議

奏爲核覆圍場屯墾事宜摺　度支部

度支部謹 奏爲核覆圍場屯墾事宜恭摺仰祈 聖鑒事查直隸總督袁世凱奏開辦圍場屯墾情形一摺於光緒三十二年十二月廿四日奉 硃批該部知道欽此由內閣抄出到部原奏內稱光緒卅一年八月十九日奉 硃批該部知道欽此由內閣抄出到部原奏內稱光緒卅一年八月十九日奉 上諭練兵處奏請開辦圍場屯墾事宜以拓利源而裕兵食一摺開墾圍場各地藉籌兵食爲寓兵於農之善策著派袁世凱認眞督辦所有該處地方事務並歸該督管轄以一事權原摺均著抄給閱看欽此除圍場地方事務改歸直隸專轄另摺陳明外其屯墾木植經臣派委已革廣西太平思順道何昭然前往設局總理其事並先後由關庫所存鐵路餘款內撥銀十五萬兩作爲開辦經費酌帶員司弁勇逐一妥籌開辦臣查圍場與辦屯田本爲退伍旗兵永遠生計而墾地闢自然之利伐木收固有之材閱時甫及一年招墾荒地四千餘頃伐存木料十萬餘件建造房屋二百餘間已漸有成效可觀兩圍木植甚多砍伐銷售不難而難於轉運應飭妥籌辦法運山灤州天津等處即能得價一面查丈餘地陸續招墾經費無待他籌而數百里圍荒不久悉成阡陌將來旗兵退伍有地可耕有租可食平時則講求武備有事則立赴戎行以仰副 朝廷寓兵於農强本固圉之至意等語臣等伏查屯墾木植賦稅攸關退伍授田餉需可裕案內所陳各節洵爲拓利源足兵食之要務惟其間一切辦法尙有亟須釐定者蓋公私款目必劃分清楚方於賦課無虧計授章程必終始統籌方於兵丁有益臣部總管財賦自應詳細綜核以昭愼重謹將原奏所陳逐一核覆於後查原奏內稱圍場招墾凡有承領地畝者收租成數以所出穀粟每頃上地頭年圍斗兩石二年四石三年六石中地頭年一石二年三石三年五石下地頭年五斗二年二石三年三石凡地畝二年成熟由退伍旗兵管業第四年分上中下三等定爲收租常租上地每年收租圍斗八石中地六石下地四石兵糧既有常供佃戶亦沾餘潤所有招佃地畝四千餘頃統計可得歲租銀十一二萬兩各節細核所定收租各數尙屬公允自應准如所奏辦理惟旗兵退伍須俟三年以後其開辦之初凡承佃之墾戶每年所納之租此次係第一年據稱收租有限然究竟收到若干第二三年收租若千合銀若干應令飭局按年查明詳細報部以憑查核以重款項又原奏內稱此次墾荒期於安插旗兵與從前辦法不同三年成熟凡墾戶所領地畝應由旗兵管業統計發出執照八百一十張均照章收取押租各節查閱圖荒開辦之初墾戶悉係承佃三年後另換旗兵管業應准先行由局發照惟所發之照各墾戶係何姓名領地畝若干收押租銀若干概須詳細造册報部至旗兵退伍受地時均應遵照定章請換部照一則該旂兵口分所分得以管領爲憑一則圍場戶口地畝備有稽核又原奏內稱此次墾荒辦法概不收取地價凡領地者悉遵承佃常例上地每頃酌收押租銀八兩中地六兩下地四兩至退地日仍將原交押租發還各節查所收押租以中地牽算計四千餘頃現已二萬四千餘兩以後尙有加無已惟退地之日仍須發還則此項銀兩自未便先時動用蓋該局經費業由鐵路餘利項下發銀十五萬兩若樽節開支自敷應用所有押租一項現存何處應令飭局查明另款存儲發商生息以備異日發還之需免致失信佃人至旗兵到屯受地其區分安插各項事宜仍令該督妥定章程報部查核又原奏內稱自留之地四十頃內已墾地七頃其餘之地來春或仍自開抑令領墾屆時察看酌辦各節查向來墾荒之流弊莫大於官紳冒領飛灑影射此案既有自留自開名目自應詳定妥章其收租各項是否與墾戶無異並如何杜絕流弊之處應令查明聲覆又原奏內稱木植一事東局西局南局就地售木得價無多現已停伐專籌運路至後圍木料連月售得銀一萬三四千兩籌供伐運之需經年修河製器購備牛馬沿途設局皆當寬籌經費各節查上年十二月間准承修 景陵 隆恩殿等處工程處咨稱該局稟稱黃花松木採伐已齊請先行發銀三萬兩咨交直隸督臣轉交該局應用又准承修 裕陵 聖德神功碑亭工程處咨稱該局稟稱該局稟稱黃花松木採伐已齊請先行發銀二萬兩咨交直隸督臣轄交該局應用各等因業經由部照數發銀五萬兩在案茲稱東西南三局得價無多究竟銀若干應令切實聲覆且該局經費既已發銀十五萬兩而後圍所售又皆動用無存夫木植爲自然之利設局隨採應有餘利歸公乃於餘利一節並無一語叙及謹稱寬籌經費似屬漫無限制其修河製器沿途設局等事仍由該督飭局綜計出入覈實辦理不得稍涉鋪張致滋糜費以上各項收支欵目應令飭局彙同修蓋房屋及局用經費一併詳細造册迅速報部核銷總之墾荒伐木利源所在惟公家確有餘利可稽兵丁均有實惠可沾方爲成效不得任欵目籠統虛而無著再查開墾設局撥欵向須先期奏咨立案此案設局已及一年之久其撥用欵項招墾章程事後始行報明究與向章未符應令嗣後凡有開辦撥欵各項事宜仍須先行奏咨報部立案以昭核實所有臣部核覆圍荒屯墾緣由理合恭摺具陳伏乞 皇太后 皇上聖鑒謹 奏光緒三十三年二月十四日奉 旨知道了欽此

路透電報

華歷三月十六日

●英儲歡迎伏見王　日本伏見王歷聘英國已電倫敦於陽歷五月六日抵英京是日英皇太子擬於多瓦港歡迎伏見王俟覲見英皇後特舉行大觀兵式以崇優遇云

●支那協會開會內容　倫敦支那協會昨日開會談話清公使爲首並諸名士會議清國之關係要件列席同會作詩更有吟詠毛詩句者亦云盛矣

中外要聞

●三省將軍之位置　東省趙次帥達聲帥程雪帥刻尙無位置或曰次帥可望郵傳部尙書或曰次帥前爲戶部尙書時銳意整頓寔理財巨手或任度支部尙書至程達二帥程調爲某旗都統達調京內用或曰二人均暫調京俟有督撫缺儘先補授紛紛莫衷一是今又有一說云次帥在奉天時藉名新政惟是誅求一事無成民心離散彈糸次帥者已及百餘起今若調度支部次帥將施用奉天手段寔非朝廷之至意程達二帥均坐失機宜之人不足獨當一面擬將三人調京置之閒散云

●民部對徐調員辦法　徐大臣因爲民政部尙書此次擬奏調隨員多係民政部司員無如徐大臣所欲調東者民政部亦欲奏留且民政部要務繁冗若悉聽徐調往則民政部辦理無人故那尙書商之徐大臣除錢參議能訓陸主政宗輿等二三員外多奏留不允調往

●東省練兵與警察　東省要政練兵與警察需欵甚巨且奏効非期月所能聞初徐大臣赴東後擬新招一鎭另與辦警察以資鎭壓惟諸政茫無頭緒著手甚難故練兵事宜商於袁督先移永平州第二鎭調東即將東省練兵費交袁督另募一鎭至於警察向來京師協巡警彈壓地面甚爲得力擬將該營調東省專管警務

●趙次帥之卸任消息　奉天函云趙次帥接得徐尙書等簡放東省督撫之旨即電詢各督撫到任日期並請速催到任以便交卸云

●趙侍郎不調東原因　民政部趙智菴侍郎初有放東省巡撫之說一及揭曉乃仍留部今據官場人云現在樞廷諸公目不見兵革耳不聞鼓鼙往年偶有車站炸彈事諸公驚悸胆落雖電燈偶炸亦疑爲革命溷跡趙侍郎能預逢迎諸公意極力羅織苟有形跡可疑者即徹底根究諸公皆稱其才今趙侍郎調東之議慶邸極力反對事終作罷

●各國欽使夫人覲見紀盛　本月十四日爲各國欽使夫人等覲見之期預由外務部應行觀各國由代理領銜美國使臣柔大臣帶領各國夫人按次列名排印名單是日上午由外務部步軍統領衙門民政部各派員遵引護衛並沿路加派警兵各公使夫人分乘車輛入東安門過景山進三座門經福華門更換肩輿外務司員在此迎迓相率循南海至殿閣少息外務部尙書那瞿二公迎候謁海宴殿宮門降輿各按來華年分之先後爲次列班御階之下各隨繙譯官恭候 兩宮升座引各國公使夫人等行覲見禮那相宣詔致詞領袖公使代衆人恭致答詞嗣各夫人率領繙譯員依次升階覲見 皇太后立降溫諭以示敬睦之意禮成後即由那相國等引各夫人至客殿賜宴畢仍由原路各回使館矣

●起用蘇元春罷議　已革廣西提督蘇元春有起用之說已誌本報茲聞政府以蘇在廣西縱匪殃民搖動大局數年之間始得平靖且御史徐膽因保蘇再用致獲申飭回原衙門礙難再行保用故起用蘇元春之議已作罷論

●路約合同存案　京漢鐵路之汴洛枝路與比國工程師訂立借欵合同經郵傳部于日前入奏奉 旨知道了現經該部將此合同共錄四分一存於郵傳部一存比國外部一存駐比公使署一存鐵路公司又聞此路所借比國欵內有天主教堂之欵

●四鎭再歸袁督之不確　鳳山統轄北洋四鎭措置失宜宿將不服辦理棘手故外間有將北洋四鎭再歸北洋督練之說今據官場中人云北洋四鎭鐵尙書已委鳳統轄若以小風潮驟奪其權何以取信況鳳都護係鐵尙書所器重且袁督督練處已分四鎭歸陸軍部規模權限均非向日之比今段芝貴簡放江撫總參議一缺早已裁撤按前後情形斷無將四鎭再歸北洋督練之理

●章主政仍奏留京　農工商部章主政仲和前由吉林達馨帥奏調赴吉襄理新政首途有日適東省官制有更改事醫帥亦開缺離吉不遠同章主政又素不願往乃由農工商部大理院連銜奏留故赴吉一事終爲罷論

●捐學費賞給郎中　直隸提督馬玉崑偕子監生馬廉德報效學堂經費一萬兩由安徽恩撫奏請獎給馬廉德郎中分部已奉 旨允准矣

●度支部改官制內容　度支部改訂官制於郎員主三項各添缺四以及分司辦事郎中爲司長司附員外爲股長股附主事爲科長科附共分二等

●大理院之審案　豫審權限已歸大理院除內外兩廳及提署案件未經了結者一併交辦外法部豫審案件尙有五十餘起均由大理院接審沈子敦正卿連日入署嚴飭司員認眞審辦將向來長叩跪拜幷煩儀一併加免大小案件隨至隨結原被兩造無不悅服云

●小軍機改爲奏調　小軍機前有信傳考一節現在又另易方針擬揀員奏調直大臣運動之門有志小軍機者其勉旃

●計學館將裁　度支部近因改章在邇無暇開辦計學館現在辦事員已回明堂憲決意裁撤此可謂朝令夕改中國事大抵如斯也

●札查造紙稻草之出產　廣東農工商務總局札飭各縣云查鹽步地方之機器造紙廠所製紙張向用布絮蒸造惟因布絮一項來路不廣成本亦貴所出之紙亦未能極求精美茲擬仿照日本成法改用稻草採購較易而出紙亦良但此稻草本省各州縣屬未審歲出能有若干足敷購用與否合行札飭該縣即便遵照迅即查明屬內歲出稻草若干價值若干查取確實數目詳晰稟報以憑移局核辦

雜報

●太古事務長之榮行　營口太古洋行事務長赴上海因新事務長之來營也故日昨乘坐涼州輪船啓行閣埠紳商沿岸送行者鞭炮響處脫帽行禮頗形熱鬧云

●久旱逢甘　營口自入春以來雨澤稀少井涸火炎甚爲可慮日昨陰雲密布涼風颯颯入夜頓降甘霖大爲深透三農之望從此想可慰矣

●詳述鐵嶺把持豆價事　查營埠油業林立每年需豆甚多去歲各商家向鐵嶺定貨計不下十六七萬石當時所定價值約在五吊二三百文准於今年六月初一日錢貨兩交並立有售條爲據所有國用行用均已一律付淸惟俟定貨到期交錢收貨而已詎料鐵嶺棧戶本來存貨無多現在市價已漲至六吊二三百文萬一價值再昂到期必不勝賠累故大家合謀用秘密手段蒲通鐵嶺縣及期糧捐局簽提東雙泰等經買家到案勒令照五吊零七十文作價國用亦不退回並令即時了結不許拖延各家被逼不堪只得遵斷具結惟東双泰執事李趙二姓未允立時收押班房後經營口商會電詰始行釋放仍令每石找繳二百餘文既無虧折之堪虞又有盈餘之可得云

大連支店新築落成五月一日移轉

●弊社營業の目的

●弊社は本邦の著名にして奏効確實なる賣薬及化粧品薬品類を海外に販賣する唯一の最良機關なり
●弊社は各製造家の發賣に係る賣薬化粧品薬品類は何時にても御注文に應し得らるるの準備あり
●弊社は取引上に付勉めて海外同業者各位の御便利を謀るへし又販賣品は總て輸出向免税品なり
●弊社は本邦重要輸出品の一たる賣薬化粧品の販路擴張の爲め常に社員を海外諸國に派遣す
●弊社は本邦の有功賣薬化粧品薬品類製造家の委托販賣に應し又輸出向能書の飜譯の需めに應す
●弊社は本邦の有力なる賣薬及化粧品類製造家の代理店にして契約濟となりたるもの左の如し

品質好良体裁嶄新なる香水、石鹸數拾種有り御観覧の榮を得度多少に不拘御用命を乞ふ

大日本東京市神田區錦町一丁目六番地（電車停留所角）（電話本局千〇九十八番）

商標

輸出業

日本賣薬株式會社

清國大連市浪速町三丁目百貳番地　日本賣薬株式會社大連支店
大阪高麗橋貳丁目　日本賣薬會社出張所
代理店　營口永世街　回天堂　三黑木薬房

今般拙者共の製造發賣する賣薬化粧品薬品類の海外輸出に關しては日本賣薬株式會社を以て代理店と致候間今後拙者共製品は右會社へ御用命仰付被下度此段以連名御依賴申上候

代理店契約濟人名

品名	地	氏名
清心丹外四方	東京	高木與兵衛
毒掃丸脳丸天授外十方	東京	山崎嘉太郎
五臓圓外十方	東京	大木合名會社
太田胃散外五方	東京	太田信義
次亜燐外二方	大阪	小西久兵衛
實母散	東京	喜谷市郎右衛門
ゼム外六方	東京	山崎榮三郎
淺田飴外二方	東京	堀内伊太郎
中將湯外三方	東京	津村重舎
金治水外十方	東京	尾澤豊太郎
千金丹	對州	茂村濟生堂
固腸丸外十方	大阪	谷回春堂
回春飴外三方	大阪	谷赤心薬舘
樟脳外二種	大阪	藤澤友吉
薄荷玉四種	大阪	勝沼商店
寳丹外十方	東京	守田治兵衛
淋丸外十一方	東京	山崎太陽堂
仁丹外三方	大阪	森下博
健脳丸外五方	大阪	丹平商會
歯健散外四方	横濱	永井永進堂
除蟲粉外三方	大阪	安住商會
六神丸外三方	京都	龜田利三郎
花香片外廿五方	東京	高木與八郎
龍角散外三方	東京	藤井得三郎
月さらい外四方	大阪	野口立志堂
水晶白粉外五方	東京	佐野小兵衛
白檀丸外五方	東京	佐野大和堂
滋強丸外五方	東京	吉永良延
氣轉丸外五方	東京	黑澤利兵衛
克快丸外三方	東京	岡田順天堂
精錡水外十方	東京	岸田吟香
美音錠外五方	東京	吉田安五郎
江戸櫻外十方	東京	淺野金黑堂
脚氣薬外九方	東京	小林謙三
實効散外五方	東京	師岡花枝
六物丸外四十方	東京	西川平兵衛
痔の薬外五方	東京	松本長春堂
靈霽圓本舗	東京	山内資生堂
コロロタイン外五方	東京	安川晃榮堂
サンタール外一方	京都	濱田北辰
仙氣五香湯	岐阜	西覺寺
加減保命散	和歌山	養泉寺
毒消丸	熊本	吉田順積
千金丹	廣島	福井弘貫堂
急活丸外一方	和歌山	天田嘉助
ダイヤモンド外五種	東京	平尾贊平
クミスト石鹸外三種	東京	島久商店
萬金丹外五方	東京	松澤八右衛門
貴女乃水外四十方	東京	永田義原
鐵飴　和胸散外	神戸	横田精々薬舘
順血二日散外二方	廣島	赤松又四郎
速効散外二方	京都	久保田薬店
井上目薬	京都	井上清七
ゴノキュ－ア	横濱	丸善商店
目薬アドラ	東京	弘濟薬堂房
熊膽丸外四方	東京	玉置合名會社
鎮八五龍圓	大阪	浮田桂造
胃病丸外三方	佐原	小川松枝
強胃散本舗	東京	淺川幸吉
神薬外五方	東京	田中資生堂
ドクトリ丸外四方	大阪	本林丁子堂
大學目薬外三方	大阪	田口參天堂
胃活本舗	大阪	山田安民
リョウマチ湯	大阪	檜尾長命堂
府應丸外四方	日野	中井源三郎
水銀軟膏外五方	東京	富谷宗吉
ゆびぐすり	大阪	中井一馬
子宮丸　一粒金丹外五方	大阪	末野八木堂
日乃出歯磨	東京	松島商會
西洋振出外五方	東京	奥村貞吉
月宮丸外五方	岐阜	小林杏雲堂
神授水外一方	東京	大塚正進堂
萬歳外三方	大阪	高木寅四郎
百毒下し外六方	伊勢	加藤政吉郎

…に御招待申上たり各國大使及び內閣員も亦其席に列せり

●英領の亞人排斥案(上全)　英領コロ

保留せり

●獨國豫算案の提出(廿九日發)　獨國政府は豫算案を議會に提出せり同豫算案はキール

末迄に訂結調印の運びに至るへしと云ふ

●貴族院改良案(上全)　英國

至るへしと、テレグラフ新聞は貴族院に對する現政府の一針たるや貴衆兩院相衝突するの場合に於ては兩院協議會を

●食鹽又々沒收　三十日午後四時奉天支社特電　我商人の運搬せる關東州の食鹽又々公主嶺に

●法主一行の出發　三十日午后四時大連支社特電　大谷法

大連電報

自四月三十日後六時至五月一日後六時　北又は西の風晴れ

昨日の氣溫　最高五七、七　最低四七、三　昨年との比　低六、七　低三、一

講談

朝顔日記

(第四十席)　桃川燕林口演

和「どうも有難うございます、さう云ふ事を聞いて出て參りますると、何だか狡猾な奴だと思召しもございませうけれども、決してさう云ふ次第ではない、全く善は急けて……… 靱「眞似をするな」靱負殿は笑ひながら金子を何程か紙に包んで和助に遣つた　和「どうも、有難う御在ます、エヽ之は片道で御在ますか上下でございますか　靱「何だ夫れは　和「之で行くだけでございますか　靱「何故さう貴樣は狡猾だ　和「ヘイ、何しろ烏渡拜見して………ヤア金子が一兩、コレコレ………」皆な明けて仕舞やあがつた　靱「何か荷物でもあるなら置いて往け　和「ヘイ外には何もございませぬが此加賀の淸光だけて」靱「ハアハア險呑な淸光だ………　和「之れを御預け申して烏渡往つて參りますが且那樣其代り御斷はり申して置きますよ、此事が纏らぬと申して私の事を不働きだせいと思召しがあつては困りますから　靱「夫れは今申す通り縁談は皆斷はると言へば必らず出來やうとは思はぬけれども、萬萬が一是が纏れば斯く申す靱負、是に越したる喜びはない　和「ヘイ、さうなれば私も御使ひに參つた甲斐がございますが、兎に角烏渡往つて參ります」氣輕な男でありますから其儘和助は大名小路を備前の屋敷へやつて參りましたもう長年の御出入日の中は二度も三度も來る事もある和助ですから御門でも別に咎めもしない熊澤先生の御小屋へ來ると　和「ヘイ御免下さいまし　○「アヤ、佐野屋又來たな、忘れ物か　和「イエさうぢやないので、且那樣は居らつしやいますか　○「奥に居らつしやる　和「どうか一つ宜しく仰しやつて、天下の一大事に付て佐野和助が參つたと………　○「馬鹿言へ、本當に貴樣の言ふ事は狐を馬へ乘せたやうだ　和「其癖私は歩いて來るのでございます　○「馬鹿………」取次は笑ひながら奥へ來て　○「申上げます　次「何ぢや　○「佐野屋が參りました　次「フム、履物佐野屋かあの男は何時でも碌な物を持つて來ない　○「此度は何も持つて參りやせぬやうで　次「さうだらう先刻加賀の淸光なとを申して酷い物を持込んで來たから叱言を言つてやつたが詫にでも來たのだらう、此方へ通せ　○「ヘイ」熊澤先生徒然と見えまして今御茶を召上つて居らつした所　次「アア和助、此方へ御出　和「ヘイ有難うございます、御茶でございますかどうも結構でございます私は御茶より此御菓子を先へ頂戴して………　次「コレコレ何うでも宜いけれども出してから取んなさい　和「夫れは何方でも同じでございますから………エヽ先刻は甚だ失禮を致しました不可ますまいナ………　次「何だい　和「矢張り御斷はりでございませう　次「何だ、不可ないの斷はるのと言つて………　和「實は十に八九は不可まいと思ひましたけれども私に往つて呉れと言はれた以上來ない譯にもならず、萬一後で照會でもあつた時に來なかつたと云ふと又一軒失策りますから一寸念の爲めに出ましたので、どうも加州樣の御家來の長樣、二万石からのお娘子でも不可ない、薩摩樣の御家來伊集院樣でございましたナ、アノ御饌樣でも不可ない天下の御旗下から御申込があつても御斷りになりまするに、今度の相手は僅ばかりで、第一先生の所へ娘を嫁にやりたいがどうか話しをして呉れと言ふのですから、圖々敷いのでございます　次「其れは何の話だい　和「エヽ、手前が此方さま同樣に御出入を致して居りまする御方でございます、夫れは筑前の福岡黑田樣の御藩で矢部靱負樣と仰しやる御方で先達つて御家の騷動の時に矢張り御意見を入れた一件に付て一時御暇になりまして京都の方に暫らく往つて居られたそうで元より惡人ではないのですから間もなく御歸參になりまして當時は江戸住居、奥樣や御孃樣は御國に居らつしやるそうでございます、其矢部靱負と云ふ御方が先生の御名前を聞いて、どうか無妻で居らつしやるなら娘を遣はしたいものだが一つ貴樣周旋をしては呉れんかと………　次「コレコレ和助　和「ヘイ………　次「何か黑田家御家來矢部靱負殿かウーム、何と云ふ御娘御であるか　和「夫れは何でございます、聞いては參りませぬけれども、女の子は一人しか無いと云ふ事で御總領が矢部の家を相續する、娘は他家へ遣る夫れで、是非先生の所へと云ふのでございます、迚も不可ますまいナ、此方へ烏渡申上げて置て直に向ふへ斷はらうと存します、迚も何でございませう、二万石三万石の大家から申込んで來てさへ往けないものを、三千石や三千五百石の矢部――　次「コレコレなぜ貴樣はさう云ふ失禮な事を申すか陪臣として三千石以上は此上もない大家ではないが、殊に矢部靱負殿の娘御なら斯く申する次郎左衞門望む所だ早速是れは宜き返答を致したいナ　和「ヘイ………ヘ……占めた………」

●東京勸業博覽會だより　(二十三日東京發)

◎夜間審査をするもの　幻燈、活動寫眞等の出品物は實地夜間の試驗をなす必要あり且つ又場所も廣く要するゆゑ二十一日頃より演藝場にて夜間審査をなし其修了までは三四日間毎夜試驗する由なるが何れも粹を蒐めたるものゝみにて定めし珍奇なるものも多かるべけれど一般に觀覽を許さぬは是非もなし

◎美術學校陳列所　第一號館東側東南隅は東京美術學校の陳列場所なりしが開場以來雨漏り騷ぎの爲工事遲延し漸く一昨日より觀覽を許したり同校出品所は館內の隅に別に建物を作りて一劃をなし中には各種の美術工藝品より繪畫、彫刻等を陳列し宛然小美術館の觀ひありしも未だペンキ乾かざる爲去二十日は一方の口を通行止とし室內は惡臭を放ち觀覽人等は入るより早く臭い〳〵と小言を云ひながら出て行くを見受けたり

◎三越の替り出品　第三號館中央の三越出品所の陳列品は元祿模樣のもの許りなりしが今度は友染縮緬の長襦袢や一ツ身物、四ツ身物なとを初め縮緬や羽二重の裙模樣の袷衣なとを取換て出品したり

◎美術館の繩張　美術館內の暫時縱覽謝絶の繩張は久しいものだが今日は此處、明日は其處と毎日繩張場所の絶ゆる事なしそれに柳屋根を設くる爲め鎚の音、鋸の音なとかしましく觀覽人の迷惑一と方ならず此分なら迚も二三日では濟みさうなけれど何とかよき工夫がなきものにや一層の事閉場後一時間でも二時間でも同時に工事をやつたら何うだ

◎演藝場　去二十日佐久間大將一行の觀覽ありしが葭町藝妓の新曲吾妻八景の手踊りも一昨日限り二十一日司法官招待當日よりは吉原名物なる同遊廓藝妓の勢獅子と付替へる筈にて二十二日は午後一時と同三時との二回共公衆觀覽の出來る日なり

●營口小學校遠足會の記(つゞき)

▲軈て我等は黄塵の中を潜り漸くにして其目的地なる桃林に達す、地は遼河の流れに沿ひ、岸邊の楊柳より幾圃の荒蕪地を隔てたる民家の畑地にあり、高粱稈を以て其四邊を圍み廣さ數反歩、中に百余の桃樹あり其蓓蕾の已に綻びて淸艶を開きたるものは芬香馥郁として爽氣骨に徹す、然して未だ綻びざるものも日ならずして其堅蕾を破らんとせり、花は內地のものに比して稍や濃艶の趣を缺き其花瓣亦小なるが如し、我等今朧圃の間に立ちて秦秦たる河邊の楊柳と交互に是を眺む、彼の翠黛の眉を展べたらんが如き楊柳は其容姿に、此の嬌羞を帶べる桃花は其姿艶なり、余や渡航以來久く母國の風景と其花卉とに憧れ居れり然して今圖らずも茲に淡紅の桃花に接す滿足寔に言外にあり、一行も倶に之を賞し乞ふて數枝を折り歸るものも亦尠からず歸路は船中花を以て埋められたらんが如し

▲斯くて一行は稍や隔れる河岸にいたる、此處は青青たる一圓の原野好個の運動場なり、生徒等の競技は是より漸く初まらんとするなり、されど朔寒吹き荒める烈風は此時に至りていよ〳〵其激しさを加へ、剩さへ種痘の爲めに發熱の氣味ありとさへ訴ふる兒童も出でたるを以て當初の豫定より時間を早めて歸路に就くの方法を執り、生徒等をして旗取り繩引等單純なる運動に限りて爲さしめぬ

▲運動を了りたる後は各自隨意の休憩を與へられ其附添ひの父兄母姉等と各所に陣を取りて所謂る花より團子の本領を顯はし各自の胃の腑に滿足を與へたる樣子なり、此間岡本寫眞屋は彼方此方に馳せ廻りて良き材料もがなと探がせし樣子なりしも何分烈風の爲めに防げられ一二葉撮影を爲したるのみにて斷念せしとは氣の毒のいたりなり

▲歸途は元來し道を取つて返へし滿潮の折なれば上陸當時の程の困難もあらず臨時機橋より直ちに乘船を爲し五時四十分と云ふに出帆せり、歸路は行きしに增さりて風烈しく船足亦自ら遲遲たり、途上の風景中特に余の眸を惹きしは河岸に沿ふたる小高き土壁の上より家屋の屋根を現はし、其傍らに一本の桃花の今を盛りと咲き揃ひたるが得も言はれぬ風情なりき

▲一行は流るるが如き月光を浴びて放笑吟歌の裡九時東稅關機橋に着きぬ、父兄等の歸りを待ち兼ねて出迎ひ居りしものも多く一行はさらばさらばの聲を殘して已がちし歸路に就けり要するに此日の遠足會は往復共に逆潮を進みし爲め豫定外の時間を費やし從つて思ふが儘の運動遊戲を爲し得ざりしは生徒職員等の等しく遺憾とせし所なりされど各生徒等の此會に於ける見學の利益は亦決して些少にあらざるべく記者も此點に於て甚だ滿足の感を抱いて歸社したるもの、一人なり。(完)

●大石橋の招魂祭　明五月二日同地盤龍山麓忠魂碑附近に於て官民合同の招魂祭を執行する筈なり

●遼陽禁酒會の總會　全會會員は去る廿八日の日曜日をトして西門外青年會會場に總會を開けり會員一同撮影を爲し會則及び其他に就き二三の協議を爲し右畢りて茶話會を開き近來に無き盛會なりしといふ

●尙武會の設立　新市街吉武活版所主等の主唱に依りて過般來奔走中なりし斯會は其後追ゝ申込者ありて其數も二十余名に達したれば本日第一會を其後庭に催さんとの由なり、尤も雨天なれば來る五日に延引すべしと云ふ

●營口座の上棟式　豫定の如く本日其上棟式を執行するといふ但し昨日の如き雨天ならば來る三日に順延する筈なり

●消防機械の移轉　在本邦人の消防組に屬する諸機械は支那巡警總局に其保管方を依賴なし居りし處斯くては萬一の場合に於て不便尠からざるより今回新市街營口座附近に機械小屋を設け同處に保管する事に決し昨日佐藤組長出張して受領爲したりと云ふ

●逃走者の護送　元元神廟街今金備人にて鞠飼常五郎と云ふは此程何か不都合の所爲ありてや無斷にて同家を逃亡し大石橋迄落ち延びし處同家の訴に依り當領事館より其取り押へ方を同地へ打電依賴したるより早速引致され領事館より增田巡査をして右常五郎を引致し目下留置中なりといふ

●大連の勞働賃金低落　內地より渡來せる勞働者は昨今急に增加せしも各地に於ける工事は未だ捗捗しからざるが故に自ら其入用尠くして大工左官其他の人足等の職業を得ざるもの多く爲に一般に賃金は低落の姿なりといふ

內地異聞

▲四日間に四兒を產む　函館區大森町二番地當時岩內郡雷野舞納村住毛利松次郎內縁の妻なる同村坂本慶吉長女ちよ(二十)と云ふが此程不思議にも四人の子を產みたるが其分娩方は去る九日に產氣附きて同日女兒の安產をなし翌十日に至りて男兒出生し又翌日十一日には女兒生れ次に又々十二日に男兒を生みたるが四ツ兒の分娩が已に稀代の珍とするに男女が代る〳〵一日置きに生れたるも實に奇中の奇とや謂はむ但し營養不良なる爲め九日に生れし女兒と十二日に生れし男兒とは十四日死亡したれど母ちよは壯健にして又殘りの一男一女も充分に發育の見込ありと云ふ

▲水雷を太鼓と誤る　去る十八日登米(小名濱附近)沖四〇海里の所にて小名濱の漁船一艘流れ網に懸りたる水雷を太鼓と誤認し引揚んとする際爆發せる者にして船体破壞し乘込員十四名の內一名漁船に救はれ廿二日午前六時小名濱に著し二名は死體發見他は行衛不明の旨島福縣知事より電報あり

▲我黨の未知數なる今日俄に歌會及談話會を開くを望ます、先づ記者に乞ふて歌壇を設け而して後健全なる會合を作らんとす諸君の意如何(粕谷八十九)▲行々は俳壇と並びて歌壇をも設くべし窮屈なるべけれど當分此欄にて高調を歌ひ給へ(編輯子)▲春夜微吟「かゝる夜ぞ御堂の繪馬はぬけ出でむ花は四月の朧月夜に(英子)▲桃の句二首「白酒の上にこぼるる桃の花」「桃小路女の文字の名札かな(太郎)▲御存じの方へ「眞の闇にも迷はぬ我を扨てもあなたは罪な人(ふじ名)▲醉うて呑海に飛び込んだら海山千年珍無類の古狸のお揃ひされて早速戻つて來た(四平慨士)▲鐵嶺惠比須屋の御多福どもが異樣の服裝で山へ登つたは一寸滿洲あたりで見られない圖だ、お負に歸りに醉拂つて市中を千鳥足で歩いたい甚だ見苦しかつた(傍觀小僧)▲僧侶はやはり袈裟法衣の方が難有い、髮を長くし洋服姿で氣取るなとは沙汰の限りである(宗教生)▲去二十七日雜報欄の小多福の魂膽と題する記事中小多福とあるは桃太郎の間違で彼の出井某の內縁の妻とも云ふべきものであります、そして此女今はサーベルさんの四千圓を當に旅順まで追ひ掛け行き只管根膽最中ですよ(小鼠生)▲海陸館の惡口の投書が頻りに來ます(編輯小僧)▲奉天の風紀日に紊亂に赴くは實に慨嘆の至りである其筋の嚴重なる取締を望みます(振肅生)▲內地に歸る人を送りて「ほどは雲井に隔つるとても心變るな何時までも(梅子)▲賤業婦なとと妾どもの事を輕蔑しておつしやるが、この滿洲で殿方でも妾どもも位の腕のある方は先づ少いでせう、憚り乍ら外務大臣の御守札は妾どもの方から出しますよ(仲居頭)▲公主嶺の矢野さん、折角內地から遙々仕入れて來た玉が紛失したとの事、知れましたか如何です(餘計生)

西洋料理　旅館
營口元神廟街關東公司南隣
牛莊ホテル
電話一六六

爲替相場(三十日)名のみ

正金銀行	賣	拂
內地 軍票百圓ニ付	一〇〇圓二五	一〇二圓二五
上海	七一兩〇〇	七二兩〇〇
天津 銀百弗ニ付	一〇四圓〇〇	一〇三圓〇〇
芝罘	一〇五圓〇〇	一〇四圓〇〇

本埠通貨相場

正隆銀行	受	拂
銀貨百圓ニ付軍票	八八圓五〇	九〇圓〇〇
金貨	九九圓〇〇	一〇〇圓八〇

過爐銀貨一兩ニ付軍票一圓三十四錢

支那錢舖	受	拂
大票	一三、五〇	一二、〇〇
小票百弗ニ付小銀貨	一二、〇〇	一〇、五〇
疊銀	一五、〇〇	一四、〇〇

重要物貨表

豆類	元豆 八兩四〇	青豆 ―	合豆 ―	
洋線	藍魚 九八兩七	立馬 九七、八	大金鷄 ―	
鐵毛	八五、〇	紅劉海 六八、〇	船檣 六九、五	三馬 ―
	人擔茶 六七、五	紅人竹 六七、〇	探美人 ―	
粗布	大鹿甲 ―	藍大牛 ―	元馬 四、〇五	
三兎	三、七八	馬狗 三、八〇	跑馬 ―	双羊 三、三五
打連布	濱馬 四、二二	老双兎 四、一五	葵哥 ―	
狐狸頭	三、八五			
大靴布	爽安 ―	得記 ―	源大順 ―	
會 ―	久大 一、八六	豐錦 ―	久廣 ―	

特別廣告

牛莊郵便局爲替貯金
金銀受拂相場　來ル五月四日迄
一軍票又ハ圓銀壹圓ニ付
本邦通貨金壹圓〇〇壹厘
電話問合サ謝絶ス

營口出帆

日本郵船會社瀛船出帆

●竹島丸　五月三日午前太沽芝罘門司神戸行
●高砂丸　五月七日午前大連仁川神戸門司
●山東丸　五月七日午前太沽芝罘仁川釜山門司神戸行　横濱行

乘船切符發賣ハ出帆前日午後五時マデ
末明出港ノ分ハ前日午後三時間マデ

營口代理店　旗昌洋行（電話二六番）

大阪商船會社瀛船出帆

●潮洲丸　五月五日入港
●基隆丸　五月四日入湊

東營口公園地横
ブツンユ兄弟商會
代理店　遠來洋行（電話六十四番）

瀛船營口出帆

●摩耶山丸（營口大阪間定期）
●穎朝丸（營口大阪間定期）
●音羽丸　五月二日長崎直行
●英航丸　五月一日入港
●チヨイサン丸　五月四日神戸行

松茂洋行　電話（五二、五七）

瀛船出帆廣告

●萬成源丸　龍口定期
代理店　東和公司（電話四一〇番）

大連出帆

日本郵船會社瀛船出帆

●長門丸　五月一日正午門司宇品神戸行
●高砂丸　五月八日正午仁川門司神戸横濱
●横濱丸　五月九日正午門司宇品神戸行
大棧橋ヨリ發船可致候
日本郵船株式會社大連出張所（電話二一〇番）

大阪商船會社瀛船出帆

●天草丸　三十日正午門司神戸大阪行
●大義丸　五月四日正午門司神戸大阪行
●嶺岑丸　五月七日正午門司神戸大阪行
●信濃川丸　五月七日午后仁川長崎行
大棧橋ヨリ發船可仕候
大阪商船株式會社大連出張所（電話二三〇番）

資本金貳千四百萬圓
積立金千四百五拾五萬圓

本支店出張所
横濱　神戸　東京　長崎　大阪
倫敦　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　漢口　天津
北京　大連　旅順　奉天　遼陽
芝罘　鐵嶺　安東縣　長春（寛城子）

横濱正金銀行牛莊支店
（電話十番支配人室）（百八番事務室）

營口元神廟街二八六
本店
電話　支配人室三四一
事務室　二一〇

正隆銀行
總經理人　深水十八

隆記洋行
西營口老爺閣東小紅樓西南側
西分店　電話　四二

齒科專門

齒冠繼續術。齒冠架工術。金冠。
有床義齒。充塡術　其他口腔一般治療
元京都醫學校々長
齒科醫　高濃梓輔
永世街森病院内
營口齒科醫院（電話一五五番）

營口新市街花園街（電話一二九番）
御壽し　菊水
出前仕候
楠意志子

一般患者の診療に應す
往診入院隨時
院長醫學士　松井甚四郎
營口豊濟門街元營口醫院跡
營口同仁醫院（電話七八番）

今般左記ノ處ヘ出張所ヲ開設致シ精々安價ニ販賣仕候間御眷顧ヲ賜度謹告候也
營口新市街花園街（新舊市街ノ境）
材木、洋釘、亞鉛板、左官材料、
宮下合名會社出張所
電話二四番
神戸市兵庫關屋町壹壹壹ノ貳
宮下合名會社
長電一八四番、九一番

新荷着
●朝日ビール一手販賣
松茂洋行

夏物大賣出し　廣告
本月廿五日ヨリ向拾日間五圓以上御買求メノ御方ニハくじ引大景品進呈仕候也
月日
營口永世街七〇號
石原商店
公主嶺新市街
同　石原支店
各位樣　同　部

痔核　いぼぢ
五個年の經驗に由り今回手術を要せず苦痛なく入院の必要なく唯一二回の注射にて速かに全治するを保證す
梅毒　婦人科
外科　胃腸病
專門　日本醫院
入院隨意（電話二二七）

廣告
高橋競齊藤行貫等今回解雇仕候ニ付爾後幣館ニ關係無之此段廣告仕候也
營口元神廟街
三船寫眞館

西洋御料理
センタールホテル
營口河岸通（元牛莊ホテル跡）

一杉丸太
一亞鉛板
一消毒石灰
一白米
一洋釘
一板小割
一平野水
一木炭
一各種石炭
一金庫

營口南本街四丁目
喜久洋行
（電話三一四）

煉瓦
石灰
石材
各種廉價販賣
營口煉瓦製造所販賣店
大阪煉瓦業組合代理店
營口元神廟街
泰東公司
（電話百三拾五番）

特許第壹〇貳壹參號
渡邊式測量器
東京地學協會ニテ閑院宮殿下ノ御賞ヲ賛賜ハリ博士學士及ビ諸専門家ノ好評ト實驗上ノ證明アル所ニシテ凱旋記念五二共進會ニ於テ有功金牌ヲ受領スルノ光榮ヲ得タリ而シテ今ヤ更ニ材料ノ撰擇ト新ニスルニ至テ三改良ヲ加ヘタル結果ハ一層面目ヲ新ニシ斯世ノ歡迎ヲ受クルニ至レリ本器ノ特長ハ測鎖類ヲ用ヒズシテ距離ヲ最確實ニ測定シ殊ニ斜面測量ニ際シ斜距離ニ對スル水平及ビ高低間數ヲ測度方位等悉ク一齊ニ器械面ニ顯ハレ他ノ測量器ノ如ク對數表幾何三角術等ノ數學ヲ要セズ如何ナル素人ト雖モ使用簡易ニシテ迅速確實ニ測定シ現場ニ於テ器械ヲ据エタル儘直ニ製圖シ得ルヲ以テ測量ト製圖トノ間ニ起ル誤差ヲ生ゼズ而シテ比較上價格最モ低廉ナリ
地耕整理山林鑛山原野水路道路鐵道地形地積開墾地漁場等其他凡テノ測量ニ適ス
定價（附屬品三脚圖板標尺其外一切取揃エ）壹組　前金甲号五十五圓　乙号七十五圓　外ニ荷造費壹組ニ付金壹圓
發賣元　大阪靱上通二丁目　金澤種次郎商店（電話八四四番）

盛進商行
新由加多地着
電話貳〇番
今回特別勉强仕り内地同値ニ販賣仕候間多少ニ拘ラズ御用命願上候

新築落成
愈開業致候て就而は極めて純粹なる旅館として設備待遇等萬般に渉り勉强可仕候得る限り何卒特別の御最負偏に奉希上候
專業御旅館　淸林館
營口新市街南本町
電話參百〇壹番

營口新市街
和洋兼備　旭ホテル
電話一三一
一家屋の宏壯なる設備の完全せる滿洲唯一
一室内電話の裝置あり居ながらにして即時御用達出來申候
一遠方より御來宿被下候節は前以て電報被下候へば停車場迄御迎申上御手荷物馬端御不自由なく取計可仕候
一別館樓上の客室は既に落成せり
一本館内大食堂は多數の御會食に遺憾無之候

家根張。雨樋。煙筒ペンキ塗一式。請負
其他瓦斯燈、日用家具、ブリキ、トタン細工、卸小賣大勉强
營口新市街花園街一二七
山海洋鐵局

歐米最新流行新柄着
洋服調進
春風嬝々駘蕩之季は合服需要勃發之時なり
營口永世街
平井洋服店
電話二〇六番

會席御料理
御宴會等には特に勉强可仕候並に料理仕出いたし申候
各位樣
營口新市街花園町
日本館（電話百三十）

專業旅館
鐵嶺新日本町
鐵嶺館

支那料理　攬園勝廣告

各位益々御淸穆慶賀之至りに奉存候陳者弊園儀今般當大連に未だ一の高尚なる支那料理店なきを遺憾に存じ上海より一切の器具を購入し熟練なる料理人拾數名を呼寄せ材料は便船毎に上海其他各特産地より新鮮なるもの取寄するとに相定め開業する運びに相成申候凡そ支那料理法の精致にして材料の珍貴豊富なる世界料理中の首位を占むるの次第は多言を要せず各位御熟知の事と奉存候殊に今回呼寄せ候弊園料理人は支那に於ても有名なる京蘇大菜の本元のものゝみに有之候へば支那料理の特色はこれを十分に發揮仕るべく且つ營業主は日本人にて有之料理は申すに及ばず室内器具は淸潔を旨とし且つ丁寧親切に御待遇申上げ偏へに御愛顧に背かぬことを期し候間何卒陸續御來觀の榮を賜わらんことを伏して奉願上候頓首

大連市若狹町（遼東新報社向側）
攬勝園主人敬白

本園の特色
虎公園と隣接ひ風致甚だ佳なり
家屋は大連民家中にて有數の大洋館にして室内の裝飾甚美麗冬暖に夏冷なり
客室は厚壁を以て隔て大小十數室に區分せり
大宴會場に滿つる爲め追て後庭家屋を修飾すべき筈なるも其竣成迄は一切の器具を備へ料理人ボーイ附添ひ遠近に拘はらず御指圖の場所に仕出しの御注文に應ずべし
上海より直接取寄たる支那酒洋酒及貫類を備ふ
廣濶なる馬車の溜場あり
料理は支那正式に則り調進可仕候へども一皿づゝ御好みに應じ頗る簡便に調進すべき畧式法あり

會席は料理　攬勝花園

新荷着ニ付多少ニ拘ラズ御用命奉願候
●朝日ビール
特約販賣店
營口西北街
裕和盛號（電話八一）

鐵嶺高等御旅館　高砂ホテル

江商合資會社出張所
白麵、洋糖、顔料
天然「セメント」
火山灰
「セメント」ニ比シ耐力優等價格約三分ノ一
滿洲一手販賣
洋藍靛、東洋車
大連市信濃町二十四番地　電話二六七番

ペンキ塗請負　京阪組
營口新市街（電話三五八番）
ペンキ、ワニス塗材料一式
白絞油。車軸油及機械油各種

奉天十間房停車場より乙側
御旅館　讃岐屋
室内淸潔にして宿料廉價叮嚀に御取扱可申候

西洋料理館
外國婦人のお酌
奉天小西關南大十街（千〇五十四番）

時下春暖の砌各位益々御淸榮奉賀候陳者不肖今回一周年紀念を兼ね當地に於て何かと不行届之點不尠依て新に藝妓數名を東京より雇入れ専ら御宴會等には精々勉强可仕候何卒倍舊御引立の上御遊覽の程御願申上候
營口新市街青柳街
瓢亭
翁亭事
（電話二〇五番）

移轉
鈴木寫眞館
元神廟街百七十二號（矢野洋行向）

大連奉天間（下り）
大連發　前九、〇〇　后六、〇〇
南關嶺　一〇、〇四　七、〇四
大房身　一〇、三〇　七、三〇
金州　一〇、四三
[illegible]

營口大石橋間
下り　營口發　前八、一五　后二、一五
大石橋着　九、一〇　三、一〇

遼陽蘇家屯撫順間